

性能

1 許容仕事

摩擦形クラッチで負荷を起動する場合、連結の過渡期に摩擦面がスリップ状態となり、摩擦仕事に応じた摩擦熱を発生します。この摩擦熱がクラッチの熱放散能力を超えると異常摩耗を生じたり、摩擦面が変形したり焼付いたりして使用不能になります。

クラッチに許容し得る摩擦仕事の限界値を許容仕事といい、図1に示します。高速・重負荷や使用頻度の高い場合は、選定時に充分検討しておく必要があります。

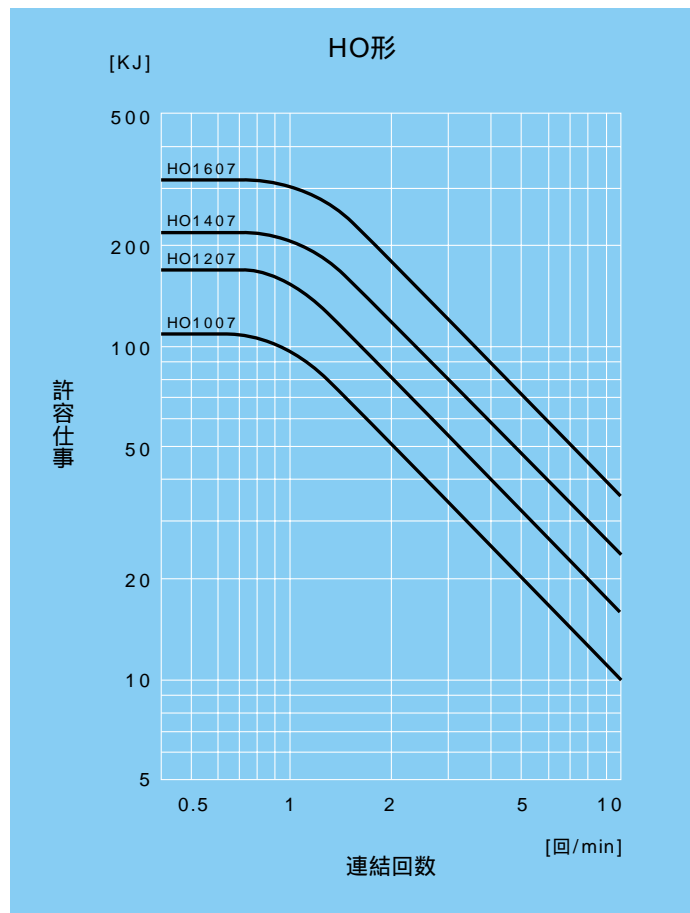


図1

2 ドラゲトルク

湿式のクラッチでは、摩擦板間に介在する潤滑油の粘性抵抗により、ドラゲトルクを生じます。ドラゲトルクは、油種、温度、給油方法、給油量、相対速度などの影響を受けますが、代表例を表1に示します。

表1

形番	ドラゲトルク [N・m]	給油量 [cm ³ /min]	相対回転数 [r/min]
HO 1007	20	2000	500
HO 1207	28	2500	
HO 1407	48	3000	
HO 1607	55	4000	

タービン油VG32、油温35